

女性スポーツ実施者の競技意欲に関する研究

小山 薫¹⁾, 作山 正美¹⁾, 小笠原 義文²⁾

(受付 2005年11月7日)

A Study on Motivation of Women for Competitive Sports

Kaoru Oyama, Masami Sakuyama and Yoshibumi Ogasawara

I. 緒言

1994年第1回世界女性スポーツ会議がイギリスのブライトンで開催された。会議では女性とスポーツにおける究極的な目標を「スポーツ文化を女性があらゆる側面で最大限に関わることを可能にし、それを尊重するようなものに発展させること」⁷⁾と定義し、女性とスポーツに関わる問題に対する認識を高めること、また、組織や政府機関に対してはスポーツにおける男女平等の原則を実施遂行するための「ブライトン宣言」を発表した。我が国においても、2000年12月に「男女共同参画基本計画」⁹⁾が閣議決定され、健康増進のために女性のスポーツ参加を促進する動きがみられるようになった。日本オリンピック委員会も2001年、「ブライトン宣言」に署名し、2004年には女性スポーツ委員会が設立され、女性スポーツの推進役を果たす組織も整備されつつある。また、2006年5月には第4回世界女性スポーツ会議が熊本市で開催されることになっている。

日常的なスポーツ活動は健康の維持増進、

QOLの向上、ストレスの解消、人とのコミュニケーションを促進するなど、心理的・社会的なプラス効果が享受できることから、日常生活におけるスポーツ活動参加による女性のスポーツ振興が拡がりを見せている。

このような背景の中、女性のスポーツシーンでの活躍が目覚ましく、トップアスリートの集う、アテネオリンピック(2004年)への我が国の女子選手の参加人数が初めて男子選手を上回るなど、近年、女性のあらゆるスポーツ活動が活発に展開され、メディアでも大きく報道されている状況にある。

本研究は女性の生涯スポーツとして、若年層から中高年まで各自の体力レベルで楽しめる、バレーボール・ソフトテニス・バドミントン競技を実施している女性を対象に体協競技意欲検査(Taikyo Sport Motivation Inventory; 以下 TSMI と略す)¹¹⁾を実施し、日常的にスポーツ活動を実施している女性の運動参加にあたっての競技意欲の状況について調査した。その目的は今後の女性スポーツ活動実施場面における心理的及び指導上の課題を探ることである。

1) 岩手医科大学 教養部 体育学

2) 岩手大学教育学部保健体育学講座

表1 女性スポーツ実施種目別TSMIスタナイン得点

(points)

実施種目 標本数 平均年齢 競技経験 TSMI下位尺度	バレーボール (n=73) 40.8±7.3歳 17.0±7.5年	ソフトテニス (n=38) 52.6±9.3歳 18.0±10.4年	バドミントン (n=33) 45.6±9.3歳 8.6±6.3年	全体 (n=144) 45.0±9.6歳 15.0±8.9年
1. 目標への挑戦	4.37±1.78	4.18±1.93	4.42±2.03	4.33±1.87
2. 技術向上意欲	4.00±1.86	4.24±1.87	3.94±2.21	4.05±1.94
3. 困難の克服	4.21±1.93	4.50±1.70	4.45±2.55	4.34±2.02
4. 練習意欲	4.44±1.48	4.47±2.02	4.52±1.66	4.47±1.67
5. 情緒安定性	4.81±1.88	4.50±1.94	4.79±1.80	4.72±1.87
6. 精神的強靱さ	4.60±1.96	5.05±1.89	4.88±1.88	4.78±1.92
7. 闘志	4.30±1.83	3.63±1.82	4.21±2.25	4.10±1.94
8. 競技価値観	5.66±1.47	6.08±1.58	5.94±1.48	5.83±1.51
9. 計画性	3.73±1.64	4.24±1.34	3.55±2.21	3.82±1.72
10. 努力の因果帰属	4.44±1.48	4.37±1.72	4.03±1.59	4.33±1.57
11. 知的興味	3.34±1.63	3.84±1.50	3.27±1.89	3.46±1.66
12. 勝利志向性	3.85±1.43	3.63±1.72	3.97±1.67	3.82±1.56
13. コーチ受容	4.37±1.80	5.13±1.40	4.97±1.70	4.71±1.71
14. IAC	4.25±1.72	3.34±1.10	3.09±1.63	3.74±1.63
15. 失敗不安	4.36±2.02	5.13±1.83	4.12±1.93	4.51±1.98
16. 緊張性不安	4.56±2.17	5.24±1.82	4.58±2.03	4.74±2.06
17. 不節制	5.96±1.77	5.32±1.49	5.27±1.77	5.63±1.72
競技達成動機 (TS1, 2, 3, 4)	4.25±1.77	4.35±1.87	4.33±2.12	4.30±1.88
自己統制能力 (TS5, 6)	4.71±1.92	4.78±1.92	4.83±1.83	4.75±1.89
競技不安 (TS15, 16)	4.46±2.09	5.18±1.82	4.35±1.98	4.63±2.02

II. 方法

対象は岩手県内の女性で、バレーボール群は県ママさんバレーボール大会出場の73名（平均年齢40.8±7.3歳，競技経験年数17.0±7.5年），バドミントン群は商業クラブ或いは地域主催の教室で活動している33名（平均年齢45.6±9.3歳，競技経験年数8.6±6.3年），ソフトテニス群は地域のクラブチームに所属し活動している38名（52.6±9.3歳，競技経験年数18.0±10.4年）である。

検査には(財)日本体育協会スポーツ科学委員会心理班が作成した146項目の4件法からなる、体協競技意欲検査 (TSMI) を使用した。調査日時

は平成16年11月から平成17年8月までに依頼回収した。

分析内容はTSMI(TS1～TS13はポジティブな尺度指標，TS14～TS17はネガティブな尺度指標を示す)から，女性スポーツ実施者の競技意欲の特徴，種目ごとの競技意欲の特徴，種目間の比較，全国および東北大会などの上位大会出場経験のある実施者（以下，競技志向者と称す）と日常の運動不足解消や楽しみとして活動している実施者（以下，運動志向者と称す）に区分し，TSMIスタナイン得点から本検査の中核的構成要因である，成功接近動機としての競技達成動機 (TS1目標への挑戦，TS2技術向上意欲，

表2 女性スポーツ実施種目別TSMIスコアの有意差検定

対 照 群 TSMI 下位尺度	バレーボール ソフトテニス	バレーボール バドミントン	ソフトテニス バドミントン
1. 目標への挑戦	n . s	n . s	n . s
2. 技術向上意欲	n . s	n . s	n . s
3. 困難の克服	n . s	n . s	n . s
4. 練習意欲	n . s	n . s	n . s
5. 情緒安定性	n . s	n . s	n . s
6. 精神的強靭さ	n . s	n . s	n . s
7. 闘志	n . s	n . s	n . s
8. 競技価値観	n . s	n . s	n . s
9. 計画性	n . s	n . s	n . s
10. 努力の因果帰属	n . s	n . s	n . s
11. 知的興味	n . s	n . s	n . s
12. 勝利志向性	n . s	n . s	n . s
13. コーチ受容	ソフトテニス*	n . s	n . s
14. IAC	n . s	バレーボール**	n . s
15. 失敗不安	n . s	n . s	ソフトテニス*
16. 緊張性不安	n . s	n . s	n . s
17. 不節制	n . s	n . s	n . s
競技達成動機	n . s	n . s	n . s
自己統制能力	n . s	n . s	n . s
競技不安	n . s	n . s	n . s

注) n . sは有意差なし、* ; $p < 0.05$ 、** ; $p < 0.01$ 水準で、対照群に対して有意に上回る種目を記した。

TS3困難の克服, TS4練習意欲の平均得点), 失敗回避動機としての競技不安 (TS15失敗不安, TS16緊張性不安の平均得点), 自己統制能力 (TS5情緒安定性, TS6精神的強靭さの平均得点) の3つのカテゴリーについて比較検討した。

有意差検定は, Student's t-test を用い⁶⁾, 有意水準は危険率5%以下 ($p < 0.05$) とした。

Ⅲ. 結 果

表1に種目ごとと全体のTSMI検査によるスタイン得点を記し, 図1にプロフィール化した。その結果, 女性スポーツ実施者全体の場合, ポジティブな尺度指標では, TS9計画性 (3.82点), TS11知的興味 (3.46点), TS12勝利志向性 (3.82点) がやや低得点であった。一方, ネガ

ティブな尺度指標では, TS14IAC (対コーチ不適応) が3.74点とやや低得点であった。また, 本検査の中核的構成要因である, 「競技達成動機」, 「競技不安」, 「自己統制能力」は各4点台で, 評定では「中のやや下」の水準にあった。

バレーボール群はTS9計画性 (3.73点), TS11知的興味 (3.34点), TS12勝利志向性 (3.85点) がやや低得点であった。ソフトテニス群はTS7闘志 (3.63点), TS11知的興味 (3.84点), TS12勝利志向性 (3.63点), TS14IAC (3.34点) がやや低得点であった。バドミントン群では, TS2技術向上意欲 (3.94点), TS9計画性 (3.55点), TS11知的興味 (3.27点), TS12勝利志向性 (3.97点), TS14IAC (3.09点) がやや低得点であった。

表2の実施種目別TSMIの比較では, 有意差

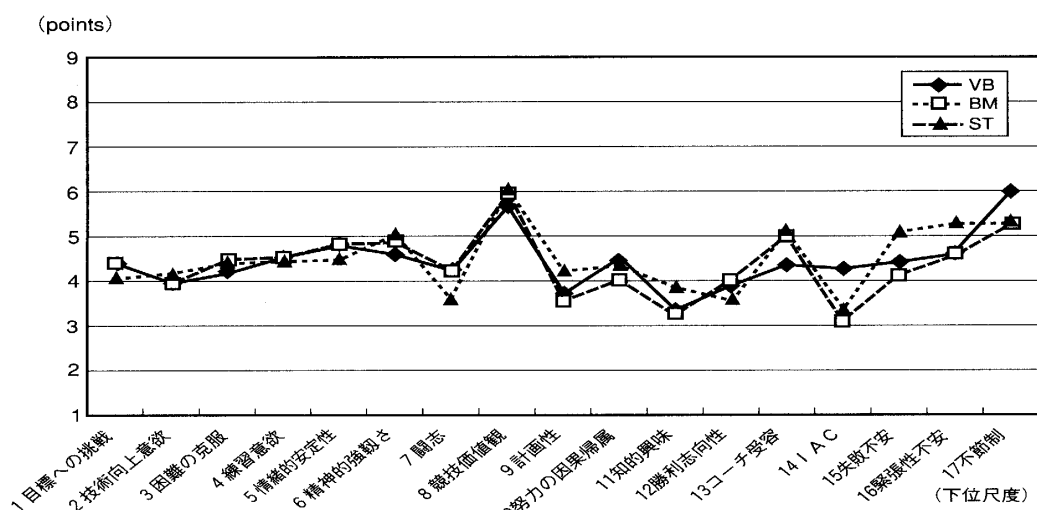


図1 女性スポーツ実施者の種目別 TSMI プロフィール

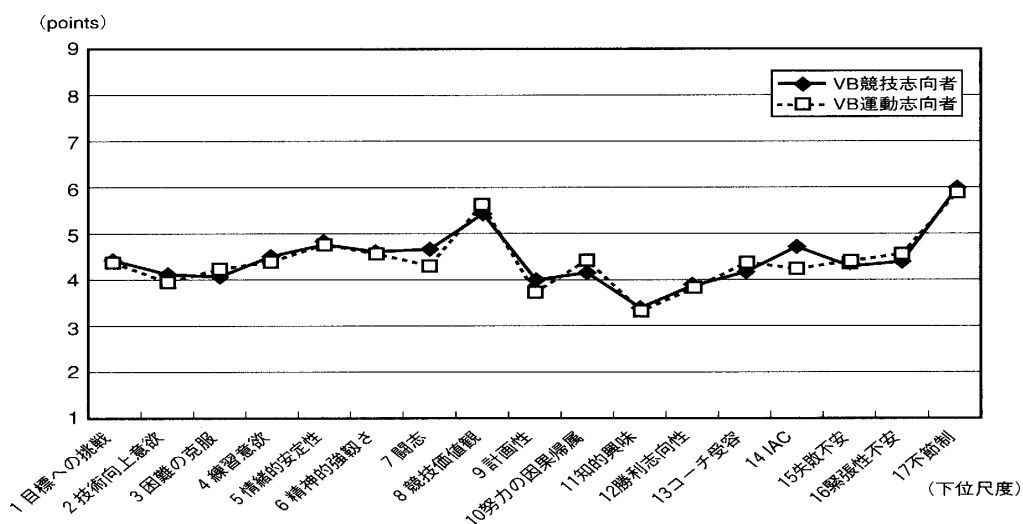


図2 バレーボール実施者の競技志向者と運動志向者の TSMI プロフィール

が認められた下位尺度は、TS13コーチ受容でソフトテニス群 (5.13点) がバレーボール群 (4.37点) を有意に上回り ($p < 0.05$)、バレーボール群 (4.25点) はソフトテニス群 (3.34点) を TS14IAC で有意に上回り ($p < 0.01$)、ソフトテニス群 (5.13点) がバドミントン群 (4.12点) を TS15失敗不安で有意に上回った ($p < 0.05$)。ただし、「競技達成動機」、「競技不安」、「自己統制能力」の3カテゴリーでの有意差は認められなかった。

種目ごとの「競技志向者」と「運動志向者」の比較において、図2のバレーボール群では有意差は認められなかった。図3の通り、ソフト

テニス群では TS1目標への挑戦 ($p < 0.05$)、TS2技術向上意欲 ($p < 0.01$)、TS3困難の克服 ($p < 0.05$)、TS4練習意欲 ($p < 0.05$)、TS7闘志 ($p < 0.05$)、TS10努力への因果帰属 ($p < 0.05$) の尺度で「競技志向者」が「運動志向者」を有意に上回った。また、バドミントン群では多くのポジティブな尺度で「競技志向者」が上回るものの有意差は認められなかった。

図5の通り、各種目の上位大会出場経験のある「競技志向者」と運動不足解消や楽しみで実施している「運動志向者」の3カテゴリーでの比較で、バレーボール群、バドミントン群において、「競技志向者」と「運動志向者」で有意差

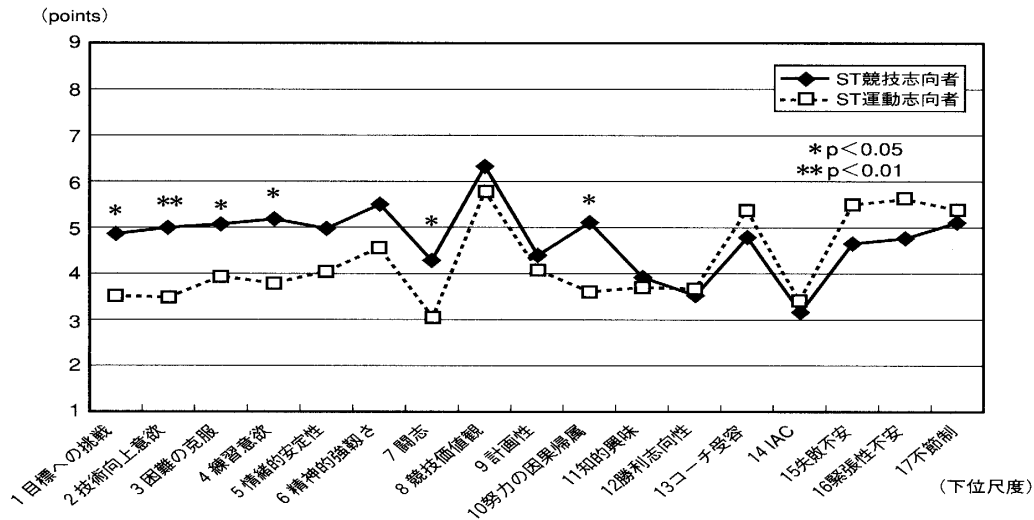


図3 ソフトテニス実施者の競技志向者と運動志向者のTSMIプロフィール

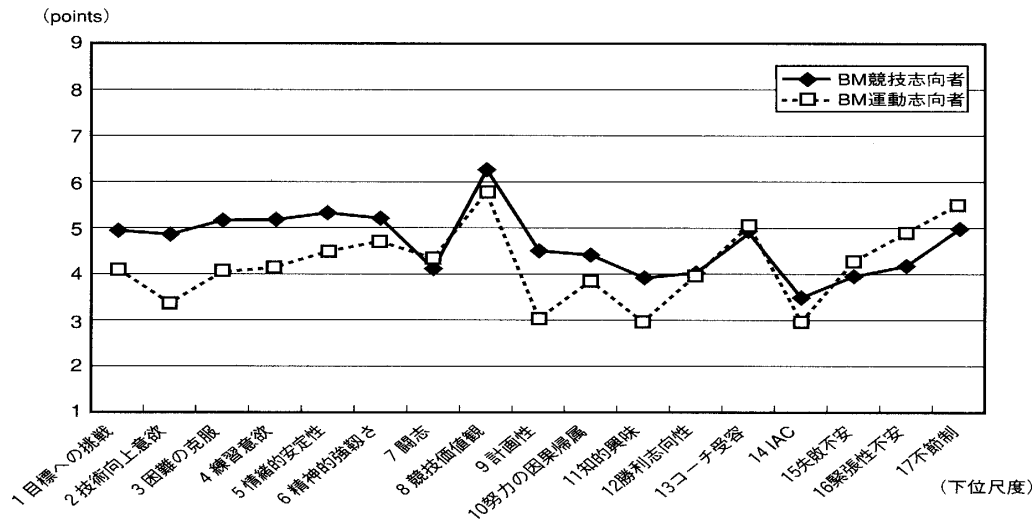


図4 バドミントン実施者の競技志向者と運動志向者のTSMIプロフィール

は認められなかった。ただし、ソフトテニス群では、「競技達成動機」で競技志向者が運動志向者を有意に上回った ($p < 0.05$)。

IV. 考察

高校運動部員から大学生、社会人の所属クラブ及び各競技のナショナルチームに所属する選手のTSMIによる報告は多くみられ¹⁾²⁾⁴⁾⁵⁾、「競技会で好成績を挙げているトップレベルの選手は競技達成動機及び自己統制能力が高く、競技不安が低い³⁾⁸⁾という傾向にある。

今回、一般女性スポーツ実施者の競技意欲を調査した結果、バレーボール群では、「計画性」、

「知的興味」、「勝利志向性」、ソフトテニス群では、「闘志」、「知的興味」、「勝利志向性」、バドミントン群では「計画性」、「知的興味」、「勝利志向性」がやや低いことから、3種目実施群ともに共通して競技志向よりも楽しみやレクリエーション的に捉えての活動であることが窺える。3種目間での実施種目による違いは、「コーチ受容」、「IAC」の尺度でバレーボール群とソフトテニス群で違いが認められるが、これはソフトテニス、バドミントンなど、男女混合で実施できる競技特性と日常からの練習状況からくる、受容体制との関わりが大きいと考えられる。さらに、競技で上位進出を目指す「競技志向者」

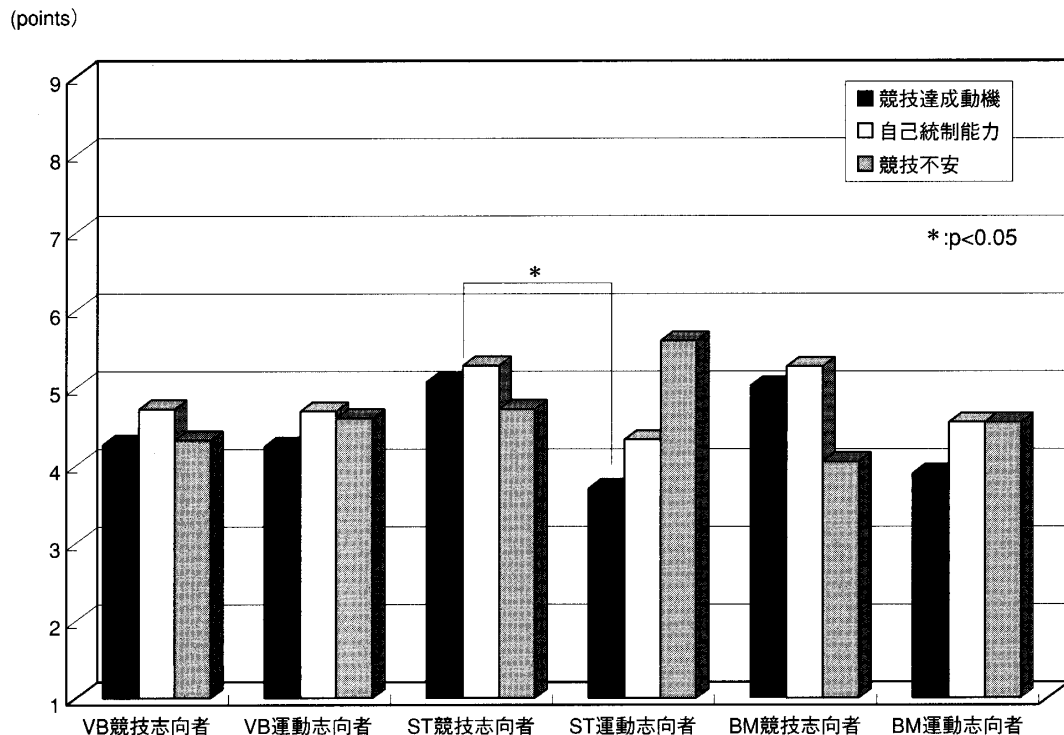


図5 女性スポーツ実施者の競技志向者と運動志向者のTSMIカテゴリー別スタナイン

は、スポーツを楽しみで実施している「運動志向者」と比較して、目標に向かっての技術習得意欲、練習意欲がやや高く、ゲーム場面での不安もやや低い傾向にあると思われる。

全体的には、「計画性」、「知的興味」、「勝利志向性」はやや低いレベルにあることから、一般女性のスポーツ競技に対する一面が窺え、競技に勝つことよりも、「競技価値観」がやや高いことから、日常生活の中での自分の実施しているスポーツ活動への参加に対して価値を見出していると推察される。また、「IAC」はやや低く、一般女性の場合、初心者、初級者レベルでの活動も含まれることから、コーチ及び指導者への依存性も高く、関係は良好な状況にあると考えられる。さらに、「競技達成動機」、「競技不安」、「自己統制能力」については平均的なレベルにあり、一般女性の競技に対する意識レベルが中程度であることが推察される。

一般女性の各種スポーツ活動を実施する上での意欲の特徴は、今回、それぞれが実施している競技に対して価値があると考えているが、競

技やスポーツに対しての知的な情報への関心、勝利志向はやや低いようであった。ただし、コーチや指導者との関係は良好な状態にあるものと考えられることから、今後、多数の女性のスポーツ活動への参加意欲を高めるためには、指導者側は各競技の特性をとらえて、勝利志向に偏らず、参加者が各種目の実施に対して、何らかの価値を見出せるような指導に重点を置くことが重要であることが示唆された。

V. 要約

日常、スポーツ活動（バレーボール、ソフトテニス、バドミントン）を実施している女性を対象にTSMI検査を実施し、競技意欲について調査検討した。

1. 全体的には「競技価値観」が平均レベルで、「計画性」、「知的興味」、「勝利志向性」はやや低いものの、指導者との関係は良好な状況にあった。
2. 各群の特徴について、バレーボール群は「計画性」、「知的興味」、「勝利志向性」、ソフ

トテニス群では「闘志」,「知的興味」,「勝利志向性」,「IAC」,バドミントン群では「計画性」,「知的興味」,「勝利志向性」,「IAC」がやや低いレベルであった。一方,種日間の比較では,ソフトテニス群が「コーチ受容」でバレーボール群,「IAC」でバレーボール群がバドミントン群,ソフトテニス群が「失敗不安」でバドミントン群をそれぞれ有意に上回った。

3. 競技志向者と運動志向者の比較では,ソフトテニス群の「競技志向者」が「運動志向者」を「競技達成動機」で有意に上回った。他のバレーボール群,バドミントン群で有意差は認められなかった。

謝 辞

本研究にあたり,TSMI検査にご協力いただいた女性スポーツ活動実施者の皆様並びに841スポーツプラザチーフインストラクター工藤秀人氏,体育学科技術員補熊谷栄子さんに深謝致します。

参考文献

- 1) 安藤明人,田嶋恭江.女子競技運動選手の自己と競技不安,日本心理学会第65回大会,筑波大学,2001.
- 2) 安藤明人,田嶋恭江.女子競技運動選手の自己と競技不安(2),日本心理学会第66回大会,広島大学,2002.
- 3) 猪俣公宏編著.選手とコーチのためのメンタルマネジメント・マニュアル,大修館書店,東京,1997.
- 4) 石井源信,他.軟式庭球選手の心理的適性に関する研究—競技意欲の実態について—,昭和59年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告,1985.
- 5) 石井源信,山本裕二.ソフトテニス選手の心理特性,第1回ソフトテニス医科学研究会,岐阜,1995.
- 6) 長田理.StatView日本語対応Macintosh—医学—統計マニュアル,真興交易医書出版,東京,1994.
- 7) 大阪体育大学,NPO法人クラブネッツ,NPO法人スポーツウエイヴ,日本家庭婦人バスケットボール連盟.女性のスポーツ参与支援システムに関する調査研究,NPO法人ジュース,2002.
- 8) 小山薫,作山正美.スポーツ選手の競技意欲に関する研究(I),岩手医科大学教養部研究年報No.36,93-99,2001.
- 9) 総理府.男女共同参画基本計画,2000.
- 10) 武田建.最新コーチング読本,(株)ベースボール・マガジン社,東京,1997.
- 11) (財)日本体育協会体協スポーツ科学委員会心理班.TSMI実施手引,竹井機器工業.